

2010年(平成22年)10月21日(木曜日)

余 瀟

増毛山道別荘(岩尾ルイ)と呼ぶ休憩所、「つつこや」と呼ぶ武好(ぶよし)駅通の跡、石狩市と増毛町を結んだ通信用の電柱、花こう岩の一等水準点などがある。すべてはこけむし、ある物は風化して自然に帰っていた。

増毛山道は、安政四年(一八五七年)にマシンケ、ハママシンケ場所を請け負っていた商人の伊達林右衛門が自費を投じて開削した、石狩市浜益地区幌と増毛町別荘を結ぶ山岳道路。昭和二十年代後半から一般の利用が途絶え、ササで覆われた。

歴史街道

の一大群生地。地名は当初、日本語で分勇師

この「幻の山道」を復元しようと立ち上がったのが増毛山道の会。伊達林右衛門の子孫の伊達東さんを会長とする増毛町、留萌市、札幌市、石狩市の会員たちが昨年から本格的に取り組み、今月七日に岩尾く別荘間約十六キロを復元した。

利用検討会で歩いた道は標高六五〇メートルから六〇〇メートルまでの下りコース。途中に地元住民が「ふるつつこや」と呼ぶ休憩所、「つつこや」と呼ぶ武好(ぶよし)駅通の跡、石狩市と増毛町を結んだ通信用の電柱、花こう岩の一等水準点などがある。すべてはこけむし、ある物は風化して自然に帰っていた。

岩尾く別荘のルートは、二十三年度の後半に一般開放を予定している。案内看板の設置、クマなど野生動物の対策を含めたルートの維持管理問題など多くの課題が残っているが、観光客らが行き来できる「歴史街道」になることを願おう。